

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300033		
法人名	有限会社もろがみ		
事業所名	グループホーム両神		
所在地	岐阜県加茂郡白川町河岐711		
自己評価作成日	平成28年6月5日	評価結果市町村受理日	平成28年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191300033-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症のあるお年寄りが毎日の生活を通して出来る限り安楽に過ごして頂けるように支援する。また、皆さんが安心して穏やかに暮らせることを大切に、これを目的とする。運営方針としては「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を掲げている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設7年目を迎えている。認知症対応の様々な困難事例を克服し、学び合い、職員は、高い専門性を身につけている。その結果、ストレスとは無縁の豊かな職場環境を築き、定着率も高い。利用者には、心身のレベルに応じた個別支援を基本とし、生活の質を高めている。特に食事に関しては、職員手づくりの家庭的なもので食欲を誘い、健康の維持にも成果を上げており、家族や医療関係者からも高い評価を受けている。管理者・職員は、常に利用者の立場に立って、思いを共有し、課題があれば速やかに改善しながら、その人らしさを大切にしたい支援を行っている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有して実践に繋がっている。又その都度、確認しあって話し合いを密にしている。	朝のミーティングで「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら」の理念に基づき、個性を活かした実践ができているかを振り返り、全職員で確認をしている。それらを踏まえ、利用者が、楽しい暮らしが送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民のサロンの方々が時々訪問されたりする。シルバー人材センターは現在お願いしていない。	運営者は、自治会長の任を受け、地域に貢献をしている。地域住民のサロンとの交流も盛んである。職員の数名は事業所近くに居住し、近隣住民と親しく付き合いがあり、災害時の協力関係も築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の皆様は、この事業を理解して頂くことを目標としている。利用者の高齢化により積極的に行われなくなった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、定期的開催している。現状報告や地域の状況など情報交換を密にしている。	会議は、隔月に開催し、運営の現状を報告している。利用者の健康状態や入退院情報、個別の支援状況などを話し合い、そこでの意見を、利用者の生活リズムの改善にも活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町福祉課の方のご協力を頂いており、何かにつけて報告したり、相談に乗って頂いたり常に連絡を取り合っている。	地域密着型通所介護事業所の認定を受け、運営上の課題で助言を得ている。町民会館内にある、包括推進係とは、常に情報を交換し、困難事例は、随時、町の福祉課に相談し、協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関しては、町の福祉課より実際に指導を受け、こちらの気付かないところを指摘されて改善した経緯もあるが、日頃から職員間で話し合いを密にしている。	一人ひとりの自由な行動を見守り、拘束をしないよう取り組んでいる。転倒での骨折予防のため、クッションを施したり、ベッドからの動きを個別のセンサー音で把握し、利用者の安全に配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」と思われる行為はないが、「些細なこと」でも「これって虐待になる？」等、気を配り話し合っている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と話し合い支援してゆきたい。利用者の経済的側面等も課題となって来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得して頂いているつもりであるが、グループホームの現状と介護保険法の変更等について、毎回、詳しく説明を要するようになった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にゆったりとした時間をつくり、介護計画の説明を含めての話し合いを行っている。	家族へは、暮らしの様子や支援内容が分かりやすい便りを毎月送り、相互理解を深めている。また、面会時や運営推進会議、家族会の際にも話し合い、そこでの意見・要望等を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合いの機会は多く持っている。職員が意見を言いやすいような雰囲気作りを大切にしている。	朝のミーティングや介護記録に基づいて、改善点などを話し合っている。身体レベルに応じた排泄支援や転倒骨折予防、センサーや戸締りの確認、食後の休息支援など、多様な意見・提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「介護職員処遇改善」制度の御陰で職員全員の励みになっていると実感している。管理者としては「働きやすい職場」作りを心がけているつもりである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者の高齢化により様々な変化に対応して行かなければならない。対応力を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は計画していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報は極めて重要である。環境の変化による不安を考慮して観察に重点を置き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに築かれるご家族との信頼関係は言うまでもなく、入所後もその信頼関係を継続発展出来るように努めなければならないと思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要とされる支援に重点を置く事は勿論、状況変化にすばやく対応できる力が可能となっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢化によって認知症も重度化しているが、安心して生活出来る環境と人間関係(なじみの関係)を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお知らせを充実させ、身体的、精神的変化について詳しく伝達し、喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人の来所については基本的には積極的に働きかけを行ってはいるが状況によってはご遠慮していただく時もある。	家族の訪問が主であり、現在は、定期的に訪れる協力医、歯科医、口腔衛生士、理容師、薬剤師などと馴染みの関係である。馴染みの場へ出かける人は、少数になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を垣間見る事も多々あり、良きにつけ悪きにつけ穏やかな環境を作り出せる支援が出来るようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の変化に伴い、入院も有り特養入所等も有るが、その都度、利用者とその家族を守ることを主眼に置いて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の支援の中で「見守りと観察」を大切にして「いつもと違う状況」に機敏に反応出来るよう努力している。個別支援を重要と位置づけている。	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの行動パターンやこだわりを把握しており、困難な人は、表情や問いかけの反応から汲み取っている。いつもと違う行動には、原因があることを理解し、職員間で共有しながら対処をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それらの把握は充分出来ている。当ホームでの生活が5年目と長期になっている方も多く、充実したホーム生活を支援することに努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の高齢化により、認知症の進行、身体的レベル低下、骨折等の退院後の対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はカンファレンスで情報を共有し、個別支援の充実を図っている。日常生活の中に無理なく取り込まれる事を大切な支援としている。	計画作成にあたり、症例を検証し、本人・家族、職員の意見や気づきを反映させている。適切な服薬と体操やゲームで体調を整え、排泄のリズムを整えながら、穏やかに暮らせるように介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りを充実することを大切にしている。介護計画有きではなく、素早い支援、対応の変更を子pころ掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスに心がけている。どのような状況変化にも対応出来るゆとりと自信が職員の間で構築されつつある。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者は高齢化により地域資源の利用は出ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3回の往診をお願いしており関係構築はかなり出来ている。約5年経過してお互いに安心して関係が継続出来ている。	かかりつけ医を継続し、協力医による往診体制もある。訪問歯科や口腔衛生士、薬剤師の訪問指導も受けている。緊急時には、看護師である管理者が救急車に同乗し、適切な医療対応を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は往診に伴う要件について充分把握しており、介護職への伝達を正しく行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院するときは家族や病院関係者との連携は密に行っている。病院の地域連携課との関係を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分な終末期支援は不可能であるが、方向付けについては話し合われているので問題なく行われている。	重度化についての対応は、ホームでの生活が可能な範囲を目標としている。可能な限り、協力医に対応してもらい、家族や関係者で方針を共有している。終末期は、事前に予測をし、病院への入院で対処をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には速やかに報告をし初期対応を行う。救急要請等の判断も速やかに行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火・防災訓練を行ったり、地域住民の協力体制づくりを行っている。	災害訓練は、各種の災害を想定して行い、夜間の対応は、防火管理者が独自に指導をしている。連絡網を整え、通報や初期消火、非常口への誘導など、近隣との協力体制を整え、備蓄品も確保している。	想定外の災害に備え、利用者情報が把握できるように、非常持ち出し袋の活用や、防災用品のさらなる充実に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員がその事について理解を深める(立場の認識)努力をしている。個別に言葉掛け等の対応することを大切に考えている。	一人ひとりの人格を尊重し、個別性を重視した対応をしている。職員は、慈愛と寛容の心を持って、利用者に接し、問いかけに耳を傾けて、その様子を「私の求める係わり方シート」に記している。それらを夜勤者とも共有し、利用者の思いの把握に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の対応次第で日常生活が穏やかになったり安心感を与えることが出来るということに理解を深めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の変化に対応している。必要と考えるときは職員側の都合も取り入れ利用者のペースに反する支援もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体の清潔には特別に心がけているが、無理じいしない方が良いと判断した時は自然の流れを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が意識的に利用者とともに食事の準備、片付け等を行っているが参加人数は減少している。	利用者の好みや喜ばれるような献立を、プロ級の職員が調理をし、完食につなげている。職員も同じ食事を一緒に摂り、旬の食材や彩り、品数も豊かに、美味しさと食べる楽しさを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血液検査のデータ等も考慮してバランス良く摂取出来るように考えている。嚥下状況と水分補給にはかなり配慮しているつもりである。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清拭は欠かさない。各利用者の歯の状態に対応して行っている。特に昼食後は丁寧にしている。訪問歯科治療も必要に応じて利用している。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢化による身体的レベル低下により排泄の自立が困難になってきている。立位保持の重要性と危険回避は背中合わせである。	個々の身体レベルに合わせ、個別の排泄を支援している。夜間、数名の利用者は、安眠できるようにおむつを使用している。必要に応じて、ポータブルトイレを置き、安全にも配慮をしながら、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容には気を配り根菜類を多くすることと水分補給に心がけている。個人個人の排泄パターンを把握して、排便困難の対処はかなり丁寧にチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、入浴支援は行っている。その時々によって変化はあるが対応は十分可能である。が、車椅子の利用者が増えてきた。	入浴は、重度の人でも浴槽に入れるよう支援している。嫌がる人には、気分転換を工夫したり、時間を変更している。好みの湯加減に合わせ、楽しい会話をしながら、ゆったりとした気分が味わえるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休養は生活の中に取り入れている。高齢化による生活リズムの変化も顕著になりその対応に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容と方法はきびしく指導し、確認作業に十分な注意を払うように話し合っている。報告と記録を大切に考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日ゆったりと過ごすことが重要視されているが、職員が個別対応で気分転換や楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は行っていない。日光浴は行いホールの風通しには気を使っている。	日頃は、階下のホールで日光浴と居間での体操で体調を整えている。季節によっては、前庭での花見や外気に触れている。利用者が、特に行きたい所がある場合は、家族に協力を依頼している。	



岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使えるような支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や状態によって必要と考えられた時は電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる生活空間を保つように努力している。 ホールの花はかかすことがない。各職員の協力で可能となっている。	共用の間の要所に、観葉植物や季節の花を飾っている。また、不要となった着物の帯を、角柱に垂らしたユニークな装飾や風呂敷を飾るなど、楽しく優しい空間づくりをしている。名言やことわざ集にも生活感があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大部分の時間はホール及び和室で過ごしているが、食後の休養は居室の利用が多くなった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	支援し易いような居室環境になっているが、家族や利用者の希望は出来る限り受け入れて対応している。	居室には、ベッド、エアコンが備え付けである。収納ケースのほか、馴染みの物や身の回り品を自由に持ち込み、それらを好みに配置している。暖簾や表札も手づくりで、落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事や残存能力を生かす支援をしている。		